

第3章 日常生活圏域における状況

第1節 日常生活圏域

第3期介護保険事業計画以降、高齢者が住み慣れた地域で介護が必要な状態になっても、生活が継続できるように、市域を13エリアの「日常生活圏域」に区分し、地域密着型サービス施設を整備する等、地域における継続的な支援体制の確立に努めてきた。

本市においては、地理的・歴史的条件や人口規模、交通事情や介護サービス基盤の整備状況、その他の社会的条件を考慮し、高齢者ケアの基礎的な単位として日常生活圏域を設定した。具体的には、人口の集積度の高い大田原地区の市街地においては小学校区を基本に、その他の地区においては中学校区を基本に設定した。（現在は中学校の統廃合等がすすんでいることから、中学校区と一致しない地区も出てきている）

この日常生活圏域の設定は、地区民生委員協議会、地区社会福祉協議会、地区区長会、地区老人クラブ連合会等の地域の関係機関・団体等の管轄するエリアと概ね合致し、住み慣れた環境でなじみの人達での高齢者ケアのネットワーク形成を容易にすると考えられることから、第7期介護保険事業計画においても、このエリアの設定を継続する。

（参考）「日常生活圏域」とは

○地域における公的介護施設等の計画的な整備等の促進に関する法律

（市町村整備計画）第4条第2項第1号

日常生活圏域（市町村が、その住民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、公的介護施設等の整備の状況その他の条件を総合的に勘案して定める区域をいう。）

【大田原市の日常生活圏域】

| 地区名 | 圏域名 | 自治会名 |
|-------|---|---|
| 大田原地区 | 大田原 | 大久保町、寺町、上町、荒町、仲町、下町、大手、清水町、元町、七軒町、旭町、新屋敷、新道、川下刈切平林、小泉、浅野（一部）、神明町、富士見ハイツ、富士見、富士山下、若草、若葉、大和久、富士見ニュータウン、新富ニュータウン、富士見中央、川下刈切、若草ニュータウン |
| | 西原 | 浅野（一部）、西原、原町、赤堀西、赤堀東、加治屋、実取団地、雇用促進住宅 |
| | 紫塚 | 栄町、深川、成田町、沼の袋、紫塚、経塚、紫塚ニュータウン |
| | 金田北 | 中田原、河原、上深田、町島、荒井、岡、今泉、戸野内、富池、市野沢、練貫、羽田、乙連沢、小滝、練貫ニュータウン、小滝苑、明宿、荒屋敷 |
| | 金田南 | 北金丸、南金丸、南金丸南部、上奥沢、奥沢、鹿畑、倉骨、赤瀬北大和久 |
| | 親園 | 親園北区、親園南区、実取、滝沢、滝岡、花園、宇田川、荻野目、宇田川ニュータウン |
| | 野崎 | 上石上、下石上、野崎、野崎東町、上薄葉、薄葉団地、薄葉第2団地、中薄葉、平沢、薄葉第3団地、野崎ニュータウン |
| 佐久山 | 岩井町、桜町、上町、仲町、下町、荒町、新町、松原、大沢、平山、佐久山南部、藤沢、琵琶池、大神、大神南部、福原、福原南部 | |
| 湯津上地区 | 湯津上 | 狭原、小船渡、湯津上（上）、湯津上（下）、佐良土（二輪～銀内）、佐良土（仲宿～田宿）、佐良土西、蛭畑、蛭田、品川、新宿、片府田、中の原 |
| 黒羽地区 | 黒羽 | 黒羽田町、前田1区、前田2区、前田3区、堀之内、北区、南区東、南区西、八塩、北滝、片田、亀久、矢倉 |
| | 川西 | 築地、奥沢、上町、下町1区、下町2区、大豆田、余瀬、蜂巢、篠原、桧木沢、桧木沢サイプレス、寒井南部、寒井本郷、寒井北部、寒井西部 |
| | 両郷 | 中野内上、中野内下、河原上、河原下、両郷、寺宿、木佐美、大久保、久野又、大輪上、大輪下、川田 |
| | 須賀川 | 須佐木上、須佐木中、須佐木下、須賀川上、須賀川中、須賀川下、雲岩寺、露久保、川上、南方1区、南方2区 |

第2節 各圏域における高齢者の現状

2017（平成29）年10月1日現在、圏域内人口は西原地区が最も多く14,519人、須賀川地区が最も少なく1,586人となっており、65歳以上の高齢者人口でも、西原地区の2,809人が最も多く、須賀川地区の708人が最も少ない。また、高齢者人口のうち後期高齢者数も、西原地区が最も多く、須賀川地区が最も少ない状況である。

一方、高齢化率をみると、須賀川地区の44.6%が最も多く、新興住宅地区である西原地区の19.3%が最も少ない。

3年前の2014（平成26）年10月1日現在と比較すると、市全体の高齢者人口は1,802人増加し、高齢化率も3ポイント上昇している。

【各圏域別にみる高齢化の現状】

（単位：人）

| 地区名 | 圏域名 | 圏域内人口 | 高齢者人口 | 高齢化率（%） | 後期高齢者人口 |
|-----|-----|--------|--------|---------|---------|
| 大田原 | 大田原 | 8,541 | 2,348 | 27.5 | 1,136 |
| | 西原 | 14,519 | 2,809 | 19.3 | 1,149 |
| | 紫塚 | 5,791 | 1,516 | 26.2 | 766 |
| | 金田北 | 8,535 | 2,211 | 25.9 | 976 |
| | 金田南 | 4,554 | 1,359 | 29.8 | 677 |
| | 親園 | 4,927 | 1,247 | 25.3 | 616 |
| | 野崎 | 6,108 | 1,818 | 29.8 | 822 |
| | 佐久山 | 2,459 | 914 | 37.2 | 479 |
| 湯津上 | 湯津上 | 4,396 | 1,533 | 34.9 | 798 |
| 黒羽 | 黒羽 | 3,850 | 1,308 | 34.0 | 691 |
| | 川西 | 4,644 | 1,310 | 28.2 | 664 |
| | 両郷 | 2,161 | 796 | 36.8 | 483 |
| | 須賀川 | 1,586 | 708 | 44.6 | 423 |
| 合計 | | 72,071 | 19,877 | 27.6 | 9,680 |

※住民基本台帳 2017（平成29）年10月1日現在

【参考値】

（単位：人）

| 項目 | 総人口 | 高齢者人口 | 高齢化率（%） |
|--------|--------|--------|---------|
| 大田原市全体 | 73,387 | 18,075 | 24.6 |

※2014（平成26）年10月1日現在

各圏域別にみる要介護認定者の現状は、以下のとおりである。認定者数は大田原地区が最も多く 375 人、須賀川地区が最も少なく 175 人となっている。

認定率は両郷地区が最も高く 29.3%となっており、西原地区が最も低く 13.3%となっている。

【各圏域別にみる要介護認定者の現状】

(単位:人)

| 地区名 | 圏域名 | 要介護認定者数 | | | | 事業対象者 | 認定を受けていない者 | 計 |
|--------|-----|---------|-------|-------|--------|-------|------------|--------|
| | | 要支援者 | 要介護者 | 認定者計 | 認定率(%) | | | |
| 大田原 | 大田原 | 110 | 265 | 375 | 16.0 | 4 | 1,958 | 2,337 |
| | 西原 | 104 | 266 | 370 | 13.3 | 4 | 2,413 | 2,787 |
| | 紫塚 | 90 | 192 | 282 | 18.7 | 12 | 1,214 | 1,508 |
| | 金田北 | 110 | 241 | 351 | 16.0 | 6 | 1,842 | 2,199 |
| | 金田南 | 48 | 261 | 309 | 23.1 | 2 | 1,029 | 1,340 |
| | 親園 | 52 | 171 | 223 | 17.9 | 2 | 1,022 | 1,247 |
| | 野崎 | 62 | 234 | 296 | 16.4 | 0 | 1,514 | 1,810 |
| | 佐久山 | 60 | 173 | 233 | 18.7 | 0 | 1,014 | 1,247 |
| 湯津上 | 湯津上 | 51 | 174 | 225 | 18.9 | 1 | 965 | 1,191 |
| 黒羽 | 黒羽 | 85 | 160 | 245 | 18.7 | 5 | 1,058 | 1,308 |
| | 川西 | 74 | 157 | 231 | 17.6 | 2 | 1,077 | 1,310 |
| | 両郷 | 33 | 187 | 220 | 29.3 | 0 | 532 | 752 |
| | 須賀川 | 57 | 118 | 175 | 23.5 | 1 | 570 | 746 |
| 住所地特例者 | | 7 | 52 | 59 | - | - | - | - |
| 合計 | | 943 | 2,651 | 3,594 | 18.1 | 39 | 16,208 | 19,841 |

※2017（平成 29 年）10 月 1 日現在

※介護保険システム「高齢者実態調査」による集計。

※「住所地特例者」とは、保険者は大田原市であって他市町村に住所を登録している場合に該当するものであるため、(自立者)+(認定者)は、必ずしも住民基本台帳人口とは一致していない。

※「事業対象者」については、第Ⅱ部各論第 2 章第 1 節「介護予防・生活支援サービス事業」(47 頁)を参照。

第3節 各圏域における介護サービス基盤等の整備状況

各日常生活圏域の介護サービス及び介護予防拠点（高齢者ほほえみセンター）の整備状況は次のとおりである。

【各圏域の介護サービス基盤等整備状況】

2017（平成29）年10月1日現在

| 地区名 | 圏域名 | 介護サービス基盤整備の状況 |
|-------|-----|--|
| 大田原地区 | 大田原 | 訪問介護（3事業所） 訪問看護（1事業所） 通所介護（5事業所） 定員 120人 短期入所生活介護（1事業所） 定員 20人 地域密着型特別養護老人ホーム（1施設） 定員 29人 認知症対応型共同生活介護（2事業所） 定員 18人 小規模多機能型居宅介護（3事業所） 登録定員 72人 特定施設入居者生活介護（1事業所） 定員 50人 |
| | | 高齢者ほほえみセンター 寺町、仲町、元町、若草、大手清水町 |
| | 西原 | 訪問介護（4事業所） 通所介護（5事業所） 定員 124人 通所リハビリ（1事業所） 定員 25人 短期入所生活介護（1施設） 定員 10人 短期入所療養介護（1施設） 定員 *人 老人保健施設（1施設） 定員 100人 地域密着型特別養護老人ホーム（1施設） 定員 29人 小規模多機能型居宅介護（1事業所） 登録定員 29人 |
| | | 高齢者ほほえみセンター 西原（美原） |
| | 紫塚 | 訪問介護（3事業所） 訪問看護（1事業所） 通所介護（2事業所） 定員 32人 通所リハビリ（2事業所） 定員 94人 短期入所生活介護（2事業所） 定員 72人 短期入所療養介護（1事業所） 定員 8人 認知症対応型共同生活介護（1事業所） 定員 18人 特定施設入居者生活介護（1事業所） 定員 48人 |
| | | 高齢者ほほえみセンター 深川 |
| | 金田北 | 訪問介護（1事業所） 訪問看護（1事業所） 通所介護（2事業所） 定員 35人 地域密着型特別養護老人ホーム（1施設） 定員 20人 認知症対応型通所介護（1事業所） 定員 12人 小規模多機能型居宅介護（1事業所） 登録定員 25人 特定施設入居者生活介護（1事業所） 定員 50人 |
| | | 高齢者ほほえみセンター 市野沢、中田原、福寿草 |
| | 金田南 | 訪問介護（1事業所） 通所介護（3事業所） 定員 95人 通所リハビリ（1事業所） 定員 40人 短期入所生活介護（3施設） 定員 37人 認知症対応型共同生活介護（1事業所） 定員 18人 特別養護老人ホーム（3施設） 定員 143人 |
| | | 高齢者ほほえみセンター 金丸、鹿畑 |

| 地区名 | 圏域名 | 介護サービス基盤整備の状況 | |
|--------------------------|-------|---|--|
| 大田原地区 | 親 園 | 地域密着型特別養護老人ホーム（1施設） 定員 20人 小規模多機能型居宅介護（1事業所） 登録定員 25人 認知症対応型共同生活介護（1事業所） 定員 18人 | |
| | | 高齢者ほほえみセンター 親園 | |
| | 野 崎 | 訪問介護（1事業所） 訪問看護（1事業所） 訪問入浴（1事業所） 通所介護（2事業所） 定員 43人 通所リハビリ（1事業所） 定員 40人 短期入所生活介護（1施設） 定員 17人 短期入所療養介護（1施設） 定員 *人 特別養護老人ホーム（1施設） 定員 33人 地域密着型特別養護老人ホーム（1施設） 定員 20人 老人保健施設（1施設） 定員 100人 | |
| | | 高齢者ほほえみセンター 薄葉、下石上 | |
| | | 佐久山 | 訪問介護（1事業所） 通所介護（1事業所） 定員 25人 認知症対応型共同生活介護（1事業所） 定員 9人 認知症対応型通所介護（共用型） 定員 3人 |
| | | | 高齢者ほほえみセンター 佐久山 |
| | | | 通所介護（3事業所） 定員 65人 短期入所生活介護（1施設） 定員 10人 特別養護老人ホーム（1施設） 定員 50人 小規模多機能型居宅介護（1事業所） 登録定員 29人 認知症対応型共同生活介護（1事業所） 定員 9人 |
| | 湯津上地区 | 湯津上 | 高齢者ほほえみセンター 佐良土、蛭田 |
| | 黒羽地区 | 黒 羽 | 訪問介護（1事業所） 通所介護（1事業所） 定員 25人 短期入所生活介護（1事業所） 定員 30人 認知症対応型共同生活介護（1事業所） 定員 9人 |
| | | | 高齢者ほほえみセンター 黒羽 |
| 川 西 | | | 訪問看護（1事業所） 小規模多機能型居宅介護（2事業所） 登録定員 42人 認知症対応型共同生活介護（1事業所） 定員 9人 |
| | | 高齢者ほほえみセンター 川西 | |
| 両 郷 | | 訪問介護（2事業所） 通所介護（3事業所） 定員 60人 短期入所生活介護（1施設） 定員 15人 特別養護老人ホーム（1施設） 定員 53人 地域密着型特別養護老人ホーム（1施設） 定員 20人 | |
| | | 高齢者ほほえみセンター 両郷 | |
| | | 須賀川 | 小規模多機能型居宅介護（1事業所） 登録定員 25人 |
| 高齢者ほほえみセンター 須賀川、須佐木、川上地域 | | | |

（注）上記の表中、*短期入所療養介護の定員については、老人保健施設の空床数による。

本市では、これまで、日常生活圏域の高齢化の状況や介護サービス施設の状況等を勘案して、特に重点的に整備が必要な圏域について地域密着型サービスの施設整備を進めてきた。その結果、これまでの計画において、必要な地域密着型サービス施設はほぼ計画どおり全日常生活圏域で整備された状況である。今後も既存事業所の利用促進と適正化を図り、地域に真に必要なサービス施設の整備を検討していく。

第4節 各圏域における地域密着型サービスの整備

「地域密着型サービス」は、高齢者が中重度の要介護状態になっても、できるだけ住み慣れた自宅や地域で生活が継続できるようにするため、身近な市町村で提供されるサービスであり、原則として当該市町村の住民のみが利用できるサービスである。

本市の地域密着型サービス事業所については、本市が指定・指導監督の権限を持ち、整備計画を策定することとなる。

【地域密着型サービス一覧】

| | | |
|---|---------------------------|--|
| 1 | 夜間対応型訪問介護 | 夜間の訪問介護サービスを定期や通報による訪問介護 |
| 2 | 小規模多機能型居宅介護 (介護予防も設定) | 通所介護・短期間宿泊・訪問介護を1つのサービス拠点で提供 |
| 3 | 認知症対応型通所介護 (介護予防も設定) | 認知症者を対象としたデイサービス |
| 4 | 認知症対応型共同生活介護 (介護予防も設定) | 認知症対応型共同生活介護への入居 |
| 5 | 地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護 | 小規模(定員29人以下)の介護老人福祉施設への入居 |
| 6 | 地域密着型特定施設 入居者生活介護 | 小規模(定員29人以下)の入居者が要介護者と配偶者等に限られる介護専用型特定施設への入居 |
| 7 | 定期巡回・随時対応型 訪問介護看護 | 日中・夜間を通じて、訪問介護と訪問看護が密接に連携しながら、短時間の定期巡回型訪問と随時の対応を行う |
| 8 | 看護小規模多機能型居宅介護 | 小規模多機能型居宅介護と訪問看護を一つの事業所から一体的にサービスを提供 |
| 9 | 地域密着型通所介護 | 利用定員18人以下の通所介護(デイサービス) ※2016(平成28)年4月から県より移管 |

第5節 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果概要

1 調査の目的

本調査は、本市の生活状況や健康状態、高齢者施策等への考え方やサービスに関するニーズ等を把握し、「大田原市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（あんしんプラン）第7期計画」を策定するうえでの基礎資料として活用することを目的として実施した。

2 調査の概要

（1）調査対象者数と実施概要

市内に在住の65歳以上の高齢者（要介護1～5の方を除く）の方3,000名を対象に調査を行った。

【調査対象者数】

| 調査票 | 調査対象者数 | 回収数 | 有効回収数 | 有効回収率 |
|------------------|--------|--------|--------|-------|
| 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 | 3,000名 | 2,322件 | 2,320件 | 77.3% |

【実施概要】

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 調査期間 | 2017（平成29）年1月13日～2017（平成29）年1月27日 |
| 調査対象地域 | 大田原市 全域（13圏域） |
| 調査形式 | アンケート調査（調査内容については、巻末資料を参照） |
| 調査内容 | 厚生労働省が示す調査項目及び市独自調査項目 |
| 配布・回収方法 | 郵送配布・郵送回収 |

（2）社会的信頼度について

一般的に、アンケートにおける必要サンプルは以下の式により算出される。

$$\text{【必要サンプル数を求める式】} \quad n \geq \frac{N}{\left(\frac{e}{k}\right)^2 \times \frac{N-1}{p(1-p)} + 1}$$

ここで、

n=必要サンプル数 N=母集団の大きさ（19,298人（2016.10.1 高齢者人口））

e=標本誤差=2.5% k=信頼率に対応する係数=1.96（信頼率：95%）

p=回答比率=50%（不明の場合の一般値）

ここで、本市の2016（平成28）年10月1日の高齢者人口（19,298人）から必要サンプル数を算出すると、1,423.4となり、調査の母集団が1,424件以上あれば、社会的信頼度がある調査となる。よって、本調査は、有効回収数が2,320件であるので、社会的信頼度のある調査といえる。

3 調査総括

①回答者属性

- ・回答者は男性よりも女性が多くなっており、年齢層は65歳～69歳が最も多く、年齢が上がるに従い減少している。また、居住圏域では、西原圏域が最も多くなっている。家族構成は、夫婦2人暮らしと1人暮らしを合わせると4割が高齢者のみの世帯となっている。

②からだを動かすことについて

- ・階段を手すりや壁をつたわずに昇っている、椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっている、15分以上続けて歩いているという方は半数以上いるが、昨年と比べて外出が減っている方は約2割いる。【問2(1)、(2)、(3)、(7)】
- ・外出を控えている方は2割おり、控えている理由については足腰等の痛みという回答が最も多くなっている。また、外出する際の移動手段は自動車(自分で運転)が6割を超えている。【問2(8)、(8)①、(9)】

③食べることについて

- ・半年前に比べて固いものが食べにくくなったという方は3割を超えており、3人に1人は食べにくくなっている。また、お茶や汁物等でむせることがある、口の渇きが気になる方は2割以上となっている。【問3(2)、(3)、(4)】
- ・半数の方が入れ歯を利用している。【問3(6)】

④毎日の生活について

- ・4割を超える方が物忘れが多いと感じており、今日が何月何日かわからない時があるという方は3割近くいる。【問4(1)、(3)】
- ・バスや電車を使って1人で外出している、自分で食品・日用品の買い物をしている、自分で請求書の支払いをしている、自分で預貯金の出し入れをしている方は7割を超えているが、自分で食事の用意をしている方は6割となっている。【問4(4)～(8)】

⑤地域での活動について

- ・地域住民の有志によって、グループ活動を行い、地域づくりに参加者として参加したい方は6割近くいるのに対して、企画・運営として参加したい方は3割となっている。【問5(2)、(3)】

⑥たすけあいについて

- ・愚痴を聞いてくれる人、聞いてあげる人、病気の時に看病や世話をしてくれる人、看病や世話をしあえる人は配偶者という回答が最も多くなっている。【問6(1)～(4)】
- ・何人の友人・知人と会ったかについては10人以上が最も多く、よく会う友人・知人は

近所・同じ地域の人という回答が半数以上を占めている。【問6（7）、（8）】

⑦健康について

- 健康だと感じている方（とてもよい、まあよい）は約8割となっている。
【問7（1）】
- 現在治療中、後遺症のある病気は高血圧が最も多く、次いで目の病気となっている。【問7（7）】

⑧介護保険事業・高齢者施策について

- 参加したい介護予防事業については、運動（筋力向上）が最も多く、次いで腰痛・膝痛対策・予防、認知症予防と続いている。【問8（1）】
- 本市が取り組むべき高齢者施策としては、「介護予防や寝たきり予防のための支援」が最も多く、次いで、「在宅高齢者を支える保健福祉サービスの充実」、「ひとり暮らし高齢者の見守り等支え合いの地域づくり」と続いている。【問8（2）】
- 介護保険料の考えについては、「ほどほどの保険料で、ある程度の介護サービスが受けられればよい」が最も多くなっている。【問8（3）】
- 介護保険制度をよくするために力を入れるべきことについては、「在宅生活が続けられるための在宅介護サービスを充実させること」が最も多くなっている。
【問8（4）】

⑨在宅医療について

- 自宅療養したいと思うかについては、5割の方が「そう思う」、4割の方が「そう思わない」と回答している。「そう思う」と回答した方のなかで、自宅療養は実現可能だと思うと回答した方は約4割である。また、自宅療養の実現は難しいと思うと回答した方は「家族に負担がかかるから」という理由が7割を超えている。
【問9（1）、（1）①、（1）②】
- 訪問診療、訪問看護については、「内容は知らないが、聞いたことはある」が最も多く、次いで「内容は知っているが、利用したことはない」と続いている。
【問9（2）、（3）】
- 病院や介護事業所が近くにある地域（市内中心部等）に住み替えたいかについては、「そう思わない」が最も多くなっている。【問9（4）】